



日本共産党平戸市議会議員

山崎かずひろの市議会だより

2013年4月

ご意見・ご相談をお知らせください
山崎議員は当選以来、毎回の議会で一般質問を行い、「議会報告」(ピラ)も7000世帯に配布しています。日本共産党や山崎議員へのご意見・ご相談など、なんでもお寄せください。
なお、山崎議員の「ブログ」をご覧ください。週2、3回更新しています。

ブログ「平戸日誌」 [検索](#)

住所：平戸市岩の上町214-1 ☎・FAX：0950-23-8021 携帯：080-1002-2248 メール：yk1922@wind.ocn.ne.jp

子育てするなら平戸市で

山崎市議の保育料引き下げ要求に「検討可能」の答弁



医療費助成、松浦市につづき、南島原市も中学生まで実施

3月の市議会、山崎議員は、税金の使い方をかえ、暮らし・福祉の応援を行うべきだ、と求めました。

子育て中のお父さん、お母さんを応援し、「子育てするなら平戸市で」という市政をつくることは、人口流失・減少を食い止めるなど平戸市全体にとっても重要な課題です。

医療費助成は、現在、就学前の子どもが対象です。病院窓口での負担は1回800円、1ヶ月1600円が上限です。長崎県地域婦人団体連絡協議会や

長崎県民主義療機関連合会などをつくる「子ども医療長崎ネット」のアンケート

トには1万2千人が回答し、80%以上が対象年齢を引き上げてほしい、と要望しています。

小・中学生まで実施している自治体は毎年増えています。長崎県でも松浦市につづいて、南島原市が今年度から中学生まで実施します。予算は松浦市で1500万円、南島原市で2900万円。

平戸市でも予算の0・1%で可能

平戸市では2400万円です。市予算のわずか0・1%です。収入が月30万円の家庭に例えると、300円。

小学校の低学年までなら800万円、高学年までなら1600万円が可能です。平戸市でも実施すべき、との質問に、福祉保

健部長は「国が行うべきこと」と答弁しました。

自治体により大きく違う保育料

「保育料を下げても」という声も切実です。昨年4月時点で、平戸市の就学前の子どもは約1500人。保育所などに通っていない子どもは410人でした。保育料が高い、というのが大きな原因です。

保育料は所得によって、第一から第八階層に分かれています。自治体により大きな差があります。

また、平戸市では、母子家庭など所得の少ない第二、第三は国基準額の90%の額。所得が多い階層ほど引き下げ幅が大きく、第六は80%、第七は70%、第八は65%です。所得が少ない世帯ほど引き下げ幅が大きくなるよう、見直すべきだ、との質問に福祉保健部長は「十分に検討することは可能」と答弁しました。



工事中の市道亀岡循環線

ストップ！税金のムダ使い

3月議会では今年度予算も決まりました。市道亀岡循環線の工事(文化センター)

1から猶興館高校までの450mの拡幅)の費用8億7千万円の一部や市民の理解が得られていない情報センター(図書館・北部公民館)の建設費用などが含まれていたため、山崎議員は反対しました。残念ながら、今議会でも山崎議員を除く他の議員は、市道亀岡循環線の工事などに賛成しました。